

六十三年度

活性化に前進する郷土の動き

大代町

6月 県西部を襲った集中豪雨に被害続

出、雨量計満杯、五日間の累計六百七十ミリに達し、重傷者も出る。

6月 大代小学校卓球部、県大会で初優勝、全国大会（東京）西日本大会（岡山）出場に卓球クラブ後援会誕生。

9月、全日本卓球選手権大会（ホス）県予選大会に再び優勝、上位独占、全国大会（福島）出場権獲得。

12月、県小学生卓球大会に於てシングルズ、男女子共優勝。

7月 十七夜夏祭り、久し振りの活気。子供みこし賑やかに登場、若者協力。

7月 テニスコート、二基の夜間照明塔完成、夜空に賑わう若者達の喜び。

8月 都市交流事業三年目を迎え八月十四、十五の両日盛大に開催。

9月 上飯谷田辺虎治郎氏、全国和牛登録協会表彰、石東連合共進会の席上

録協会表彰、石東連合共進会の席上

10月 受賞（母牛まさひろ号）十五産以上。下市、田辺孝氏、県花一ぱい運動に於て昨年に続き最優秀賞に輝く。

11月 大代町文化祭に野外ステージ（カラオケ）に人気集中、盛大な賑わい。

12月 大代婦人会、山陰中央新報、地域ポランティア団体育成賞受賞、平素の活動に明るい喜びの声。

わがふるさと創生論

下市 田辺 孝



私はこの三年間、ふるさとと都市を結ぶ交流で考えました一端を述べて、明日のふるさと論を展開してみたいと思います。

私達はふるさとの中で生き続けていなくてはならない人、ふるさとを後にして都会でどうしても働かなくてはならない人、この二つに分けられますが、でも、両者ふるさとと呼べる町づくりは生まれた家に誇りを持ち、そして育った土地に親しみを持ち続けるといふ。これがふるさと町づくりの基礎だと思えます。

更に、ふるさとと都市に出た人達との温ふるさとの人と都市に出た人達との温

かい人間関係を持つようにならなければ、本当のふるさと町づくりはできないんじゃないかと思えます。

● 小さい時からふるさとに愛情を

町というものは人間と同じように生きていくものです。成長していくものです。ですから、家庭で学校で子ども達に自分の町にロマンを持たせることが如何に大切かです。

ロマンとは、それは希望といいますが、望みと申しますか、あるいはこうありたいと期待を持って大きくなることです。それがなければ町づくりというものはできないのではないのでしょうか。

今の小中の児童・生徒が、「よし」庭球の町にしよう。卓球の町にしよう。その願いをまわりの人達がふくらませてやることによって、本気になるかもしれせん。大切なのは愛着です。● 世界のふるさとづくりのシンボル 私は世界一周の旅をして、心に残ることは、あのワシントンのポーマック川のほとりに咲いておられます。日本とアメリカとの戦いの中で一部のアメリカの人が、日本からきた桜な

どは、と言ってこの桜を切ろうとしたのですが、ワシントンの多数の市民がとんでもない、われわれ日本の贈り物の心と戦っているのではないのだ、と言ってこの桜に手もふれさせなかったという事です。それほどワシントンの市民は、自分達の町のシンボル桜に誇りを抱いているのです。

もう一つは、ヨーロッパにブリュッセルという都市があります。ベルギーと申します小さな国の首都ですが、泉の真ん中に「小便小僧」と言われます小さな彫刻で、生まれながらの姿をした子どもから泉へ水を注いでおります。今ではブリュッセルというと、あ、小便小僧かということになります。

このブリュッセルでは由緒というのが、市民の中に伝えられてあるのです。小便小僧が、ブリュッセルという町が、平和の町であるということの一つのシンボルになっております。

第二次世界大戦のときにも、この市役所とその近所は、戦火から逃れたという話さえあります。

子どもの一つの行動をシンボルにしたことが、この町を戦争から救ったと

いうことになります。

・大代町のシンボルづくりは日本が民主主義の社会になって、今は広場を中心にした町づくりが見られます。また文化が見られます。

札幌の大通り広場その他、いろいろの所で広場づくりが課題となっています。

大代のシンボル。それは大江高山です。未だ開発されていません。この開発を若い世代につないでいなくてはと思います。若い世代はきつとこのロマンを生かしてくれると思います。

また、大代には丘らしい丘もあります。そこを公園と広場にして「ふるさととは遠きにありて思うもの」でなく、ふるさとに帰りやすい環境を作ることが、ふるさとと都市の人達のふるさと起こしだと思えます。

公園の中には、集会場があり、そこで会合も宿泊もキャンプもできる。そうなるふるさとに帰りたくても帰れない人達が帰りやすくもなりましょう。墓参もできましよう。

「ふるさとというのは緑が美しく、水がきれいで、空気が澄んでいる。」

ただそれだけでなく、お互い別れ別れとなっても、人間関係を大事にするふるさとに気づき合わなくてはなりません。それがふる里といえましよう。

・結び

東京の高山会に出席して、要はふるさとの人達が主体的に積極的に団結していけば、ふるさとを思う人達を結集できるということです。不可能を可能にできるということを知りました。

大代の町は変わらないでなく、変ると信じて自治会も公民館も前向きな姿勢で話し合えば光明に出会えるものと思います。大代の若者よ、立ち上がるではありませんか!! 理想を現実化しようではありませんか。

おしらせ

東京都川崎市

重元良夫様

一、金一封御寄附、有難うございました。

◇社協大代支部より

大田市久手町

(柿田)横手泰彦様

一、香典返しに替えて御寄附ありがとうございました。

